

環駒ヶ岳だより

from 環駒ヶ岳広域観光協議会

鹿部町/七飯町/森町

「環駒ヶ岳だより」は、北海道駒ヶ岳を囲む鹿部町・七飯町・森町の3町による環駒ヶ岳広域観光協議会が、地域の話題やイベント情報をお届けしながら、皆様にご参加いただける様々な企画を通して想いをひとつに、「かんこま」を盛り上げていくお便りです。*「かんこま」=環駒ヶ岳の略称

Vol.
04



投稿者様

お寄せいただいた駒ヶ岳エピソードを紹介します。

12月より開催中の「駒ヶ岳エピソード募集」。今回は、皆様から寄せられた駒ヶ岳にまつわるエピソード(左)を編集担当の感想(右)を添えて大切に紹介させていただきます。

※エピソードはスペースの関係から一部抜粋して掲載しております。ご了承ください。



編集担当

Ep1.「駒ちゃんへの『お願い』からはじまる一日。」

定住して以来、朝の日課として“大沼レイク G.C”まで散歩していますが、出掛けに必ず“駒ちゃん”(家内共々、最初から“駒ちゃん”と呼ぶようになりました。)に向かって、『駒ちゃん、絶対に噴火しないでネ、皆さんが迷惑するからね』と念じて一日の最初のお願いをしています。

ちなみにエゾリス君達は皆わけあって“ジュンちゃん”と呼んでいます。

“駒ちゃん”という愛称から、駒ヶ岳がご夫婦にとって、いかに身近で大切な存在であるか強く伝わってきます。私たちも駒ヶ岳について伝える際は、その魅力だけに注目するのではなく、“噴火”という脅威も一緒に伝えていきたいと思います。

これからも駒ちゃんへの温かな「お願い」を、どうぞよろしくお願いします。

Ep2.「言葉なしで通じ合う心。」

駒ヶ岳は、私の人生に大きく占めている山です。息子が小さい時から、家族3人折に触れ登山していました。帰りに息子は泣きべそをかいていましたね。

夫と最後の登山は73歳まででした。登山して頂上近くなって目に入った一輪の美しい紫色のイワギキョウは、疲れを癒してくれました。私だけではないらしく、その花の周りに綺麗な小石を並べている人がいて、「皆同じなんだね」と思ったことがありました。

駒ヶ岳は素晴らしいところですから、ここにたくさんの方がおいいただけるようにしたいですね。

頂上の花を囲む小石のエピソードに胸が熱くなりました。言葉はなくても、そこに訪れた人が美しく咲く一輪の花に対しての感動を共有できた瞬間が想像できます。

息子さんの涙も、ご主人との最後の登山も、すべては駒ヶ岳が繋いでくれた大切な記憶ですね。

Ep3.「登山で大きくなった背中。」(投稿者:美ちゃんさん)

小学生の時に、駒ヶ岳の背まで登山しました。火山灰で滑る足元はとても大変でゴールした時の景色は特別なものでした。下りはもっと大変で妹がどンドン先へ進むのに私は何度も転びそうになり、涙ぐみながら下りました。登山の達成感を味わい、自信がついた貴重な思い出です。

火山灰特有の歩きにくさや、下り道の心細さ。駒ヶ岳を登ったことがある人なら、誰もが「わかる!」と頷いてしまうはずで。

涙をこらえて下りきったことによる自信は、今も背中をそっと押し続けてくれているのではないのでしょうか。

他にもたくさんのエピソードが届いております!
いただいたエピソードは、「環駒ヶ岳だより」または公式HP「たびこま」にて順次掲載させていただきます。
引き続き募集しておりますので、ぜひご投稿ください!
詳しくは公式HPをチェック!

【お問い合わせ】

環駒ヶ岳広域観光協議会

鹿部町役場食と観光課

TEL: 01372-7-5293

FAX: 01372-7-3086

MAIL: kankoh@town.shikabe.hokkaido.jp

公式ホームページ
“たびこま”

